

介護分野の技能実習生の 実習実施者の 日本語学習指導者向け 手引き

公益社団法人 日本介護福祉士会

平成29年10月

目次

第1章 実習実施者における 日本語学習プログラムについて

第1節	実習実施者における日本語学習指導者に求められるもの	1
第2節	入国後1年目の日本語学習の概要	1
	(1) 入国後講習における日本語学習	2
	(2) 入国後の実習実施者での日本語学習	2
	(3) 聴解学習	3
参考情報	実習生に求められる日本語能力の目安	6

第2章 実習実施者における 日本語学習を支援するうえでの工夫

第1節	自律学習の考え方と実習実施者による学習支援	8
第2節	実習生の日本語レベルに応じた学習内容の調整	10

第3章 EPA介護福祉士(資格取得者)の介護現場での 日本語コミュニケーションの課題と取り組み事例

第1節	EPA介護福祉士が日本人職員等から聞く場面での課題と取り組み事例	12
第2節	EPA介護福祉士が日本人職員等に話す場面での課題と取り組み事例	16
第3節	EPA介護福祉士が利用者や家族等から聞く場面での課題と取り組み事例	17
第4節	EPA介護福祉士が利用者や家族等に話す場面での課題と取り組み事例	20
別添	実習実施者で行う標準的な日本語学習プログラム及び指導要領	25
	1 入国後1年間の日本語学習カリキュラム	25
	2 実習実施者での日本語学習指導要領	29
	3 聴解学習指導要領	42
参考	日本語能力を測定する試験についての情報	44
	1 日本語能力試験(JLPT)	44
	2 実用日本語検定(J.TEST)	45
	3 日本語 NAT-TEST	46
	4 日本語能力試験と在留資格変更手続の関係	47

第1章

実習実施者における 日本語学習プログラムについて

第1節 実習実施者における日本語学習指導者に求められるもの

介護職種の技能実習生（以下、実習生という。）の実習実施者における日本語学習の目標は、日本語能力試験 N3 程度の日本語能力を身につけ、能力試験に合格することはもちろんのこと、日本語による介護現場でのコミュニケーションを円滑に行うための能力を身につけることである。

そのため、実習実施者の日本語学習指導者は、これらの日本語能力を測定する試験に関する正確な情報を理解するとともに、実習生や関係者と相談しながら、受験スケジュールを組み、所定の期間内に N3 程度の資格取得を目指すことが求められる。同時に、日本語能力資格取得に向けた学習のみならず、介護の現場で利用者や介護職員、医療関係者とのコミュニケーションを通じた信頼関係を構築するための日本語能力の向上も不可欠である。

※日本語試験に関する受験手続等の情報は、「参考：日本語能力を測定する試験についての情報」を参照。

第2節 入国後1年目の日本語学習の概要

1. 入国後1年目の日本語学習の目標

入国後の1年間の日本語学習の目標として、実習生の目指すべき日本語能力とともに、日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施者での実務、実習および日本語学習を円滑に進めること。日本語学習の1年間の到達目標は次のとおりとすることが望ましい。

- (1) 日本語の基本的な会話、読み書き聞く能力（N3 程度）の確保
- (2) 日本での生活に関する情報の提供と体験
- (3) 日本の文化・社会に対する基本的理解
- (4) 日本の介護に関する基本的な知識の習得

2. 入国後1年目の日本語学習の内容

実習生が、2号（2年目）に移行する際に、日本語能力試験 N3 程度の資格を取得していることを目指す際の日本語学習のイメージを示している。

(1) 入国後講習における日本語学習

技能実習生の受入れにあたっては、監理団体が所定の期間の入国後講習を行うことが義務づけられている。実習実施者においては、監理団体でどのような日本語講習が行われたのか、また、その結果としてどの程度の日本語能力に達しているのか等について、把握しておく必要がある。

(2) 入国後の実習実施者での日本語学習

入国後講習が終了した後、実習生は、実習実施者での介護の実習が始まり、同時に日本語能力の向上についても求められる。特に、実習開始前に N3 程度の日本語能力資格が取得できていない場合は、資格取得に向けた学習も併せて実施する必要がある。その場合は、まずは、日本語能力の資格取得のスケジュールを立て、それに応じた学習計画を立案することが重要である。

入国後講習が終了する際に評価される実習生の日本語レベル（講習終了時に日本語教育専門家による日本語能力の評価表を作成することが望ましい）に応じて、実習実施者における学習を始める段階を「実習実施者における日本語学習カリキュラム」として日本語レベルを到達目標から選択することができる。

日本語学習指導者は、1週間に1回以上、進捗状況を確認して、実習生を励ますことは、継続的な自律学習に不可欠である。その際、職場や生活圏において学習環境を整え、学習しやすい場所を提供することは、学習効率を高めるうえでも重要である。

より高い日本語能力を習得するため、本手引きでは、N3 取得者も学習が継続できるように、4段階の学習カリキュラムを提示してあるため、学習が継続できるよう支援する。

実習生は、介護の技術の習得もあるため、日本語の学習だけに時間を使うことは難しいと思われるが、滞在1年目の早いうちに日本語能力試験 N3 程度の試験に合格するためには、できるだけ毎日の継続的な学習時間を確保する必要がある。そのためには、日本語学習 Web コンテンツを活用した自律学習を行う等の効率的な学習が望ましい*。

※日本語学習 Web コンテンツによる自律学習

「日本語学習 Web コンテンツ」には、以下の内容が含まれている。

- 1) 入国後1年以内の N3 程度の取得を目的とした日本語学習の補助教材
- 2) 実習生自身が目標を立て、計画、実行、振り返りまでを行う自律学習をサポートする機能をもつ補助教材

実習実施者の日本語学習指導者が、実習生の日本語習得状況を把握するツールとして活用できるものである。

実習生が自身で計画を立てて学習するが、Web上に学習状況や目標設定等が記録されるため、実習実施者の日本語学習指導者はいつでも必要なときに実習生の進捗状況を確認することができる。テストの結果等に応じて、N3程度の日本語能力資格試験を受験させることを勧めるなど、日本語の習得状況を判断する材料として活用できる。

本システムは、実習生および実習実施者双方の利便性等を考慮し、スマートフォンおよびパソコン等、多様な端末の種類に対応できるよう設計される。

(3) 聴解学習

特に、来日が初めての実習生は、日本人の自然な日本語に不慣れなため、実習開始直後のできるだけ早い段階から、正確に聞き取る練習に特化した本学習を行うことが望ましい。入国後講習終了時に個々の実習生の能力評価を参考とし、所定のカリキュラムに沿って学習することを推奨する。特に、聴解学習は、短時間であっても継続が重要である。また、教材による聴解学習のみならず、日本語学習指導者が「生」の発音練習となる対面での学習を行うことが効果的であることを考慮した学習計画となるよう、支援する必要がある。その頻度は、学習モチベーションのためにも、最低でも1週間に1回は対面学習を行うことが望ましい。

入国後1年目の日本語学習の概要（標準的な学習デザイン）

目的 実習生の日本語能力および日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施者での実務・実習および日本語研修が

目標 【参考】日本語能力試験 N3 日常的場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

■日本語

【読む】 日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる

■生活

【聞く】 日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の日本での生活に関する情報の理解

■日本社会

日本の文化・社会に対する基本的理解

時期	学習の種類		目標設定
入国後1・2か月	(1) 入国後講習 入国後講習における日本語学習 =実習生来日後、全員に実施する必須研修 実習生の日本語能力および日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施者での研修が少しでも円滑に進むようになることを目的とする。日本語習得状況から実習生を「N3取得者」「N4上位者」「N4下位者」の3レベルに分け研修を行う	日本語	目標例（N4上位者） 1か月目 ・相手の質問に対して、正しく返答できる ・待遇関係を意識して話すことができる 目標例（N4上位者） 2か月目 ・自身の考えをまとまりのある単位（複数の文レベル）で発話することができる ・特定の職業（病院スタッフ、介護スタッフ）の人とのやりとりがある程度できる
		介護の日本語	実習実施者が必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる
		その他	【Webコンテンツ】（日本語学習コンテンツ） 自律学習の目的と意義を理解する
入国後講習 終了後 ～入国後10か月	(2) 実習実施者における日本語学習 入国後3～10か月の自律的な日本語学習 =入国後講習後、各実習実施者における日本語学習 実習実施者での実務および研修が少しでも円滑に進むようになることを目的とし、日本語能力試験N3程度の試験に合格できる日本語力の習得を目指す	必須科目	各実習生の実力に合わせて、学習を始める段階を選択する 目標例（1段階） N3レベルの問題に取り組みるようにN4レベルの日本語の理解力、運用力を高める 目標例（2段階） N3レベルの問題に取り組み、N3程度の合格への実力をつける
		推薦科目	目標例（介護の日本語） 入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる
		その他	【Webコンテンツ】 毎日のドリルなどを通して、実習生が自ら自律的に取り組む姿勢を養うとともに、N3程度の合格を目的とした勉強のきっかけとする
入国後講習 終了後の50h	※必要に応じ実施 (3) 聴解学習 入国後講習後、聴解能力強化のための日本語学習 =実習実施者で個別研修	日本語の聴解	【前半目標】 日本語の文の構造や初級文法をしっかりと理解し、細かい部分に注意を払って、正確に聞くことができる
			【後半目標】 日常生活の中で遭遇する可能性の高い場面で使用される自然な表現（言い回しやことば等）を正確に聞き取り、的確に回答することができる
入国後 8か月～10か月	N3程度の合格に向けた試験対策 =6か月後のレベルチェックにて結果の芳しくなかった実習生は合格するための最後の学習期間	日本語	【N3程度の試験合格】 数多くの問題を通して、正答率70%以上を目指す

円滑に進むことを目的とする。

できる。日常的な場面で目にする範囲の難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。

学習内容・方法	概要	N3 程度の日本語試験
<p>【学習内容】 4 技能（話す・聞く・書く・読む）の基礎力をバランスよく伸ばせるよう、以下の科目を立てて指導する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合日本語・聴解・読解・文字 ・介護の日本語・発音・会話・作文 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監理団体の責任のもと実施（研修場所の確保等も監理団体によって行われる） ・日本語教師（有資格者）による日本語指導 	<p>担当者 = 日本語教師（有資格者）</p> <p>学習形態 = レベル別によるクラスレッスン</p> <p>指導法 = 日本語直接法</p> <p>その他 = 介護に関する話題や専門用語を取り入れる</p> <p>留意点 = 授業に先だててオリエンテーションを実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自国での生活習慣や学習形態と異なる可能性があるため、丁寧に説明すること 	<p>【レベル判定：入国後】 クラス分け N3 程度の模擬試験によって、クラス判定（口頭試験も行う）</p> <p>↓</p> <p>【レベル判定：入国後講習終了時】 模擬試験 N3 程度の模擬試験によって、伸長を確認</p>
<p>【学習内容】 Web コンテンツによる自律学習の進め方研修を実施する 実習生は専用サイトにログインして、機能や操作方法を正しく理解するとともに、目標を立てる</p>	<p>監理団体および実習実施者の担当者は、Web コンテンツの概要を理解し、支援手法の知識を得る</p> <p>実習生は、入国後講習が終わる前に、Web コンテンツにて、2 か月間の目標を立てる</p>	<p>【本試験】 受験スケジュールを見て N3 程度の試験を各自受験</p>
<p>【学習内容】 日本語能力試験 N3 程度の試験に合格するために、以下の科目を計画的に学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法・文字・語彙・読解・聴解 ・自律学習 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目ごとに適切な教材を用いて、計画的に学習を進める ・実習実施者の日本語学習指導者が定期的に確認する 	<p>担当者 = 実習実施者の日本語学習指導者</p> <ul style="list-style-type: none"> * 実習生の学習状況を定期的に確認 <p>学習形態 = 実習生一人ひとりに日本語教材を配付して自己学習</p> <ul style="list-style-type: none"> * 入国後講習終了時の日本語レベルに応じて適切な教材を使用する 	<p>【本試験】 実習実施者の日本語学習指導者は実習生と相談しながら受験スケジュールを組み、N3 程度の合格を目指す</p>
<p>【学習内容】 実習実施者での実務および研修が円滑に進むようになるために、以下の科目を計画的に学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音・介護の日本語 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護の日本語」を用いて、用語や表現を学習する 		
<p>【学習内容】 ドリル：1 回 5 問程度を問題バンクから学習レベルに応じて科目ごとに出題 小テスト：カテゴリごとのテスト（1 回 10 分程度） 復習テスト：本番のテストと同様の問題（熟達度を確認）</p>	<p>定期的に、実習実施者の日本語学習指導者（または監理団体スタッフ）が進捗を確認／入国後の日本語学習 Web コンテンツにアクセスして、コメント入力</p>	<p>【レベル判定：模擬試験】 入国後講習終了後、2 か月、4 か月、6 か月に実施</p>
<p>【学習内容】 まとまりのある発話や自然なスピードでの会話の聞き取り</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市販の日本語（音声）教材を用いて、計画的に学習を進める ・実習実施者の日本語学習指導者が定期的に確認する 	<p>担当者 = 実習実施者の日本語学習指導者</p> <ul style="list-style-type: none"> * 実習生の学習状況を定期的に確認 <p>学習形態 = 実習生一人ひとりに日本語教材を配付して自己学習</p>	
<p>【学習内容】 以下に重点を置いて、N3 程度の試験合格を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を測って問題演習 ・解答テクニック習得 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監理団体／実習実施者にて研修所確保（または民間の日本語学校に委託） ・日本語教師（有資格者）による日本語指導 	<p>担当者 = 日本語教師（有資格者）が望ましい</p> <p>指導法 = 日本語直接法</p> <p>その他 = 市販の模擬試験などを用いて熟達度を可視化</p>	<p>【本試験】 在留資格の更新等の手続きに間に合うよう、入国後 11 か月目までに合格／認定証を取得する日程を組む</p>

介護職種の実習生に求められる日本語能力の目安として、日本語能力試験 N4 および N3 の日本語能力のレベルについて、日本語学習を指導する際の参考となることから、以下に記載する。

参考：日本語能力試験公式サイト

<http://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html> (2017年9月現在)

1) 日本語能力試験 N4 レベルの日本語能力

N4 とは日本語能力試験の 5 段階中、下から 2 段階目の日本語レベルである。

■ N4 認定の目安

基本的な日本語を理解することができる。

【読む】

- ・ 基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。

【聞く】

- ・ 日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。

■ N4 認定者のうち、50%以上の人々が「できる」と回答した言語活動例

- ・ 自己紹介（例「～からきました」「私は〇〇です。どうぞよろしく」）をしたり、自分についての簡単な質問に答えたりすることができる。
- ・ 店、郵便局、駅などで、よく使われることば（例「いくらですか」「〇〇をください」）を使って、簡単なやりとりができる。
- ・ 趣味（例「私の趣味は～ことです」）や興味のあることについて、話すことができる。
- ・ 自分の部屋（例「～に…があります」）について説明することができる。

2) 日本語能力試験 N3 レベルの日本語能力

N3 とは日本語能力試験の 5 段階中、真ん中の日本語レベルである。

■ N3 認定の目安

日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

【読む】

- ・ 日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。
- ・ 新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる。
- ・ 日常的な場面で目にする範囲の難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。

【聞く】

- ・ 日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。

■ N3 認定者のうち、50%以上の人が「できる」と回答した言語活動例

- ・ 店、郵便局、駅などで、よく使われることば（例「いくらですか」「〇〇をください」）を使って、簡単なやりとりができる。
- ・ 趣味（例「私の趣味は～ことです」）や興味のあることについて、話すことができる。
- ・ 自分の部屋（例「～に…があります」）について説明することができる。
- ・ 驚き、うれしさなどの自分の気持ちと、その理由を簡単なことばで説明することができる。

■ N3 認定者のうち「できる」と回答した人が 25%以上 50%未満の言語活動例

- ・ よく知っている場所の道順や乗換について説明することができる。
- ・ 準備をしていれば、自分の送別会などフォーマルな場で短いスピーチをすることができる。
- ・ 店で買いたいものについて質問したり、希望や条件を説明したりすることができる。
- ・ 電話で遅刻や欠席の連絡ができる。
- ・ 身近で日常的な話題（例：週末の予定）について会話ができる。
- ・ 相手の都合を聞いて、会う日時を決めることができる。

第2章

実習実施者における 日本語学習を支援するうえでの工夫

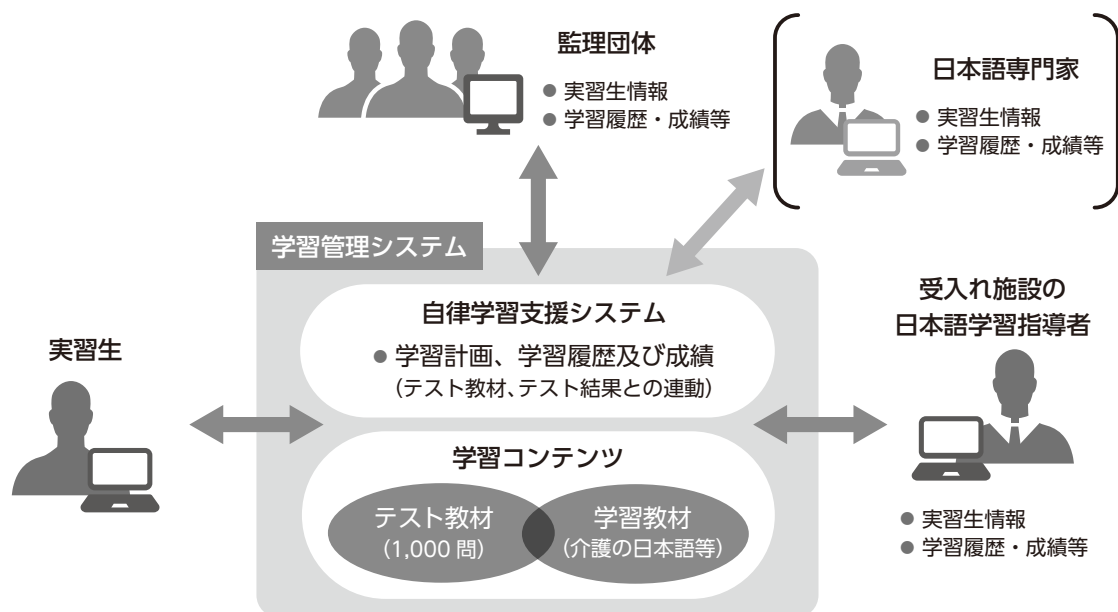
第1節 自律学習の考え方と実習実施者による学習支援

実習生は入国後講習において、日本語教育の専門家による日本語教育を受け、その後、実習実施者での実習が開始されれば、実習実施者における日本語学習指導者等の支援を受けながら、学習を進める「自律学習」が行われることが望ましい¹⁾。

つまり、実習生が自分で計画を立て、自分で実行し、振り返り、再度計画を立て直し、学習を進める。その過程の中で実習生は、実習実施者の指導者等の支援を受けながら日本語能力を養い、介護現場で活躍できる人材に育成されていくと考えられる。

そのために、実習実施者での日本語学習指導者は、実習生の日本語学習の進捗状況や日本語能力の獲得状況に応じた励まし等、実習生と担当者の双方向のコミュニケーションを持つことが肝要である。

これらの自律学習を効果的に実施するために、日本語学習 Web コンテンツを活用することが望ましい。本ツールは、実習生が日本語学習を自律的に行うことをサポートするものであり、教材コンテンツと自律学習支援システムが含まれる。



1) 「自律学習 (autonomous learning) とは、「学習者自身が自己の学習に主体的に関わり学習を孤立化せず、教授者や教材や教育機関などといったリソースを利用して行う学習」(参考：国立国語研究所監修 (1998)『日本語教育重要用語 1000』バベル・プレス)

以下に実習生の自律学習に対して、実習実施者の日本語学習指導者がどのような支援が可能かについて、支援の例を示す。

1. 入国後講習での「自律学習」習慣付け

入国後講習における日本語学習では、実習生が実習実施者に移った後、Web コンテンツを十分に使いこなせるように、監理団体の研修担当者が、この Web コンテンツによる自律学習の進め方について説明を行う必要がある。

自律学習の進め方を学んだ実習生には、Web コンテンツを実際に使わせ、入国後講習終了後6か月間の目標を立てることが望ましい。

これと並行して、日本語学習指導者は、実習生が実習実施者で実習が開始する前に、学習支援手法の知識を得る必要がある。

2. 入国後の実習実施者での日本語学習

○日本語学習計画の立て方

Web コンテンツ上の自律学習コンテンツを活用することで、週単位の学習計画を立て、日本語レベルおよびカリキュラムに沿った学習を実行することができる。具体的なカリキュラムは、別添「実習実施者で行う標準的な日本語学習プログラム及び指導要領」を参照されたい。また、以下に示すテスト教材を活用した学習成果（テスト結果）を振り返り、必要に応じて計画の見直しを行うことも考慮する。これに対して、日本語学習指導者は、実習生の1週間の学習実行状況を確認し、アドバイスを行う。

3. 日本語自律学習支援システム (Web コンテンツ)

(1) ドリル

Web コンテンツには、気軽に漢字語彙等を学習できるドリルが用意されている。実習生は、毎日、Web コンテンツ上にあるドリルをスマホやタブレットで、1回に5問出題されるドリルを繰り返し解くことで、学習継続のモチベーションを高める。

Web コンテンツ上にある1,020問の問題の中から、毎日継続して問題を解くことによって、N3程度に近づくように設計されている。学習状況の確認の際は、ドリルの実施状況をコミュニケーションを取りながら確認すると、学習のモチベーション維持につながる。

実習生は、N3程度の試験に合格するまで、このドリルは継続して学習すると効果的である。実習生がN3程度の試験に合格しても、日本語学習指導者は、日本語の基本的な知識を確実にするために、実習生に学習継続を薦める。

(2) 小テスト

実習生は、1週間に1度程度、Webコンテンツ上にある小テスト（10問、10分程度）を実施する。小テストには、聴解問題も含まれるため、日本語学習指導者は、静かな環境を用意する必要がある。

小テストの目的は、毎週の学習状況を確認することにある。小テスト終了後は、質問等に答えるとともに、試験を実習生と一緒に振り返り、励まし等のアドバイスを行うとよい。

4. 復習テスト

日本語学習指導者は、2か月に1度復習テストを行い、Webコンテンツ上に記録する。入国後講習終了後2か月後および4か月後の復習テストは、Webコンテンツ上にある復習テスト（102問、140分程度、聴解問題含む）をダウンロードして、紙ベースの復習テストを実施する。入国後講習終了後6か月後の復習テストは、市販の模擬テストを運用する。実習生に復習テストを行う際は、静かな環境を用意する必要がある。

復習テストでは、2か月間の学習状況を確認する。日本語学習指導者は、終了後、復習テストの成績状況をWebコンテンツ上に記録する。復習テスト終了後は、質問等に答えるとともに、試験を実習生と一緒に振り返り、励まし等のアドバイスを行うとよい。

5. 本番の試験手続き

日本語学習指導者は、監理団体や実習実施者の関係者と連携して実習生の模擬試験および復習テストの成績の状況を見て、本番の試験を受験する手続きを進める。

受験の判断は、模擬試験及び復習テストの55%の正答率を基準とする。入国後講習終了後4か月までに、複数回数受験を計画し、N3程度の日本語試験合格を目指す。受験には、手続き期間および受験料が必要であるため、実習生と相談し、計画的に進める。各日本語試験のホームページ等で受験場所や時間の確認も必須である。

第2節 実習生の日本語レベルに応じた学習内容の調整

日本語のレベルが日本語能力試験N3程度に未達の場合は、標準カリキュラムに沿って学習を進める。N3に合格している場合は、N3合格者レベルの4段階目のカリキュラムに沿って学習を進める。

来日後1年間の日本語学習カリキュラムは準備されているので、実習生全員がマニュアルに沿って学習を進めることができる。日本語学習指導者は、毎週の声かけ、小テスト、2か月に1回の復習テストなど、折に触れ実習生に声をかけてコミュニケーションをとることが

重要である。日本語学習が継続的に進んでいるかを確認の際も、ほめ、励ますことが大切である。

コミュニケーションは、日本語学習指導者だけが担当するものではない。同僚や上司、利用者、家族、地域の人々など、実習生を取り囲む社会全体で、相互のコミュニケーションを心がけることで、実習生の日本語のみならず、社会性も成長していくと考える。

EPA介護福祉士(資格取得者)の介護現場での日本語コミュニケーションの課題と取り組み事例

技能実習とは制度が異なるが、介護現場で研修を行う外国人の事例として、EPA 介護福祉士候補者受入れの仕組みにおける、日本語のコミュニケーションの課題と取り組みについてまとめた。

第1節 EPA 介護福祉士が日本人職員等から聞く場面での課題と取り組み事例

1. 課題：専門用語、申し送り、複雑な業務指示が聞き取れない

事例 1

- ・職員から業務やケアの指示をされたとき、言い回しが難しいとニュアンスがうまく伝わっていない。
- ・専門職としての用語（申し送り、看護、オムツ交換、食事摂取等）を EPA 介護福祉士に聞いても、理解が困難な様子である。
- ・介護用語を交えての指導で言語の意味を聞き取れない。
- ・申し送りノートの内容が理解できていないことが多く、変更になったケアなどができていないことが多い。
- ・申し送りや引き継ぎなどで略語があると EPA 介護福祉士に間違って伝わることもある。例えば「当欠」を「吐血」と聞き間違えるなどして EPA 介護福祉士が慌ててしまうことがあった。

対応例

- ・ゆっくり、できるだけ簡単な単語で丁寧に話し、略語は極力使わないようにした。
- ・どこまで正確に聞き取れたかを確認し、復唱させた。
- ・わからないことばは、その都度、日本人職員が噛みくだいて、簡単なことばに置き換えて再度説明をした。
- ・わからないことばは電子辞書等で EPA 介護福祉士に調べさせ、意味が正しいかを日本人職員が確認した。
- ・わからないまま放置させないよう、わからないことはその都度、日本人職員に確認するように EPA 介護福祉士に促した。また、大事な内容のお知らせや情報は追加で口頭でも伝えるようにした。
- ・必ずメモを取らせるようにした。EPA 介護福祉士に自分のメモ帳を準備してもらい、日本語で

の聞き取りが難しい場合は、ローマ字やひらがなの混合を用いて、理解している部分を記入させた。その後、わからない部分は日本人職員に尋ねるように指導した。

- ・申し送った内容を復唱してもらい、理解できたか確認した。特に注意事項は、日本人職員が事例など交え、どう行動するかを具体的に説明した。

事例 2

- ・「できなければ、〇〇してください」と少し複雑な言い回しで指示すると内容が正確に伝わらない。
- ・「〇〇さん、〇〇をやってもらっていいですか」という表現が伝わらない。

対応例

- ・「〇時までには〇〇をする」というようにメモに書いて EPA 介護福祉士に渡し、メモの内容を理解したか、復唱させた。
- ・「〇〇をしてください」と言い切る表現にした。

事例 3

- ・メモで内容を残した際、メモの漢字が読めず、内容が伝わらない。

対応例

- ・メモでは、難しい漢字を使用しないようにした。

事例 4

- ・朝礼やカンファランスでの申し送りなど、多数の職員に向けての報告などでは、スピードが速くてうまく聞き取れない。
- ・フロアミーティングやユニットミーティングでの話し合いの場面や重要事項の伝達が聞き取れない。

対応例

- ・ミーティング後、個別に内容を説明し、要点の振り返りを一緒に行った。議事録を読ませ、わからない箇所があれば説明した。
- ・会議中、一つひとつの議題の区切りごとに、EPA 介護福祉士に「〇〇までわかりましたか?」と確認し、または、言い換えなどして説明し、理解していることを確認し、進めるようにした。

2. 課題：方言が聞き取れない

事例

- ・ 国家資格を取得する前の EPA 介護福祉士候補者は、入職までは日本語を標準語で勉強してきているため、入職後、申し送り等での方言の聞き取りが難しいことがあった。
- ・ 日本人職員同士の情報交換のなかでの方言等が聞き取りにくい。

対応例

- ・ できるだけ方言を使わずに標準語でコミュニケーションや申し送りを行ったが、EPA 介護福祉士もすぐに方言を覚えたので、それほど問題ではなかった。
- ・ わからないことは、表現は、その都度、日本人職員に質問するように指導した。

3. 課題：日本人職員等の早口が聞き取れない

事例 1

- ・ 指示出し、申し送り等をする日本人職員が早いスピードで話すと聞き取れないことがある。EPA 介護福祉士が聞き取れないことを日本人職員に言えればいいが、本人はその場ではわかったふりをしてしまう。

対応例

- ・ 日本人職員側ができるだけゆっくり、標準語で正確な日本語を話すようあらかじめ日本人職員に協力を求めた。
- ・ EPA 介護福祉士が不安そうな顔をしていれば、わかったか否か確認するようにした。「わかりました」と言っても、復唱させて理解したかを確認した。
- ・ EPA 介護福祉士が理解しきれなかったところは、日誌に記入するように伝え、後日文章にして説明を行うようにした。

事例 2

- ・ 朝礼、会議や研修会等、多人数に向けて話す場面で、司会者等の話すスピードが速いと内容が聞き取れず、ついていけないことがある。

対応例

- ・ 会議や研修では、できるだけ文字で書いた資料を渡し、EPA 介護福祉士が話の内容を目でも追えるよう配慮した。また、EPA 介護福祉士の横に日本人職員が 1 名付いて補助説明を行なった。時には司会者等が話すスピード等が適切かどうかを EPA 介護福祉士に確認して、適宜、速さの調整を行った。

4. 課題：日本人職員等からの電話の内容が聞き取れない

事例

- ・EPA 介護福祉士が他の部署から電話を受けたときに、電話の内容が聞き取れず、理解しきれないことがある。

対応例

- ・すぐにほかの日本人職員が電話を代わるようにした。一旦電話を切って、EPA 介護福祉士から日本人職員へ電話内容を伝え、職員からかけ直すようにした。

5. 課題：申し送りや指示が長いと聞き取れない

事例

- ・朝礼、申し送り、業務中の指示で日本人職員の話が長くなったり、さまざまな内容の話を次々と続けた場合、EPA 介護福祉士が内容を聞き落したり、細かい部分までその場で理解できなかったりする。

対応例

- ・短い単語や短文で、ゆっくりと大きな声で伝えた。ジェスチャーを交え、EPA 介護福祉士に理解できていたか確認を行うようにした。
- ・朝礼や申し送りの内容は必ず日本人職員がノートに記載し、その日のうちに EPA 介護福祉士が目視で確認できるようにした。
- ・EPA 介護福祉士への業務指示は、業務の区切りや休憩時に説明を行うようにした。

6. 課題：「わかりました」と返事をするが実は理解していなかった

事例

- ・職員から指示・申し送りを受け、EPA 介護福祉士は「はい。わかりました」と返事をする。しかし実際の指示内容とは異なる行動をしたり、利用者へ誤まった対応をすることがある。

対応例

- ・聞いた内容を EPA 介護福祉士に復唱させて、理解度の確認を行った。理解していなかったら再度説明をした。
- ・EPA 介護福祉士の日本語能力に合わせて、長文ではなく短文で、ゆっくり、はっきりした口調で伝えるようにした。その際、一つひとつ「わかりましたか」と確認してから次に進むようにした。
- ・わからないことをわからないままにしまうことの弊害を具体的に説明し、きちんと意味がわかるまで日本人職員に質問するように指導した。

- ・EPA 介護福祉士は、意識をして聞く態勢にないときは、ことばが本人のなかに入っていない場合がある。EPA 介護福祉士は予測している日本語の範囲で聞く可能性があるので、日本人職員側は、きちんと本人に呼びかけてから伝えるようにした。

第2節 EPA 介護福祉士が日本人職員等に話す場面での課題と取り組み事例

1. 課題：日本人職員等への電話対応が難しい

事例

- ・相手の表情が見えないので、EPA 介護福祉士から日本人職員への電話での業務連絡、利用者の急変時の緊急電話や電話での申し送りは難しい。

対応例

- ・電話業務は、日本人職員が代わって対応するようにした。
- ・EPA 介護福祉士には、なるべく電話連絡をさせずに直接伝えてもらうようにした。
- ・同じ部署内で電話をさせることで電話に慣れてもらった。また、着信時、電話機の表示に電話番号が出るため、誰からの電話かわかる場合は、積極的に EPA 介護福祉士に出てもらった。EPA 介護福祉士の電話に出る日本人職員には、できるだけ平易な言い方で話すようにあらかじめ協力を求めた。

2. 課題：日本人職員への事故報告、申し送りが難しい

事例

- ・EPA 介護福祉士が利用者の状態を申し送りするとき、適切なことばが言えず、聞き取りにくいことがある。
- ・事故やトラブルの報告時、EPA 介護福祉士が詳しく説明しようとしたり、ニュアンスを伝えようとする、ことばにしにくくわかりにくいことがある。

対応例

- ・難しい申し送りの際は、日本人職員が交代するようにした。
- ・日本人職員側が聞く態勢であることをボディラングージで示すようにした。ゆっくりと EPA 介護福祉士の話を聞き、思い当たる単語を日本人職員側から言って、EPA 介護福祉士の説明を助けた。日本人職員が聞き取れないときは、職員の方から正しいことばを伝え、再度言うってもらうようにした。
- ・「内出血ができていた」と EPA 介護福祉士が申し送りしたときは、直接その場へ行き一緒に確認するようにした。
- ・申し送りをした EPA 介護福祉士とそれを受けた日本人職員が、時にはジェスチャーを交じえ

ながら、お互いに復唱して確認した。その際、わからない部分があれば、聞き直しをした。

- ・EPA 介護福祉士に自然体で話す機会を与えるため、本人のことばに耳を傾け、重要な項目（入居者の体調面に関わること）以外の日本語の言い間違いは聞き直さず、受け止めるようにした。

3. 課題：敬語、助詞の使い方等が難しい

事例

- ・EPA 介護福祉士が気を遣って敬語で話そうとしても、ため口になり、クレームにつながることもある。
- ・他職種のスタッフへの内線や伝達るとき、主語が不明だったり、単語の間違い、助詞の使い方の間違いで内容が伝わりにくいことがある。
- ・「～に」「～の」等、ことばのつなぎ方が適切でない。
- ・漢字の音読みと訓読みを間違えることがある。

対応例

- ・自分の身内に丁寧語は使わない等、その都度教育した。日本の風土に慣れることで、ことばのニュアンスをつかむ練習をさせた。
- ・日本語講師から直接指導を受けさせた。日本人職員と外出するなど、日本語と接する時間を意識的に増やした。
- ・日本人職員が聞き取りと内容の確認をしっかりと行った。EPA 介護福祉士が言い間違いをしたときはその都度修正させた。
- ・慣用句を増やすため、日本語の小説類を読むことを勧めた。
- ・「縁がない」「運がない」等、ちょっとした違いが大きな誤解を招くので注意しなければならない表現を教えた。
- ・その都度、ゆっくりと正確なことばを説明し、覚えさせた。

第3節 EPA 介護福祉士が利用者や家族等から聞く場面での課題と取り組み事例

1. 課題：利用者や家族の早口、方言、古いことば遣い等が聞き取れない

事例 1

- ・利用者や家族の早口、方言や古いことば遣いが聞き取れないことがある。

対応例

- ・日本人職員が利用者や家族の間に入り、わからないことばや方言の意味を EPA 介護福祉士にその都度説明した。
- ・方言の一覧表を作り、EPA 介護福祉士に持たせた。

- ・利用者の特性や特徴を EPA 介護福祉士にあらかじめ説明した。
- ・利用者からの訴えや話の内容がわからなかったら、理解できないまま返答するのではなく、すぐに、近くの日本人職員に助けを求めるように指導し、職員がすぐに対応できるようにした。

事例 2

- ・利用者個人の入所前の生活状況、帰宅願望等について、家族からの話が長くなると、EPA 介護福祉士にはわかりづらいこともあり、うまく返答ができないことがある。

対応例

- ・担当フロア内で別の日本人職員が EPA 介護福祉士と一緒に家族からの話を聞いた。または、日本人職員が EPA 介護福祉士に代わって聞くようにした。

2. 課題：利用者や家族からの要望、複雑な質問等に対応できない

事例 1

- ・家族からケアプランの説明を求められたが対応がうまくできない。

対応例

- ・リーダーやケアマネジャーを呼ぶよう指導した。

事例 2

- ・EPA 介護福祉士が利用者からの要望等の重要度の判断ができずに、後日になって、日本人職員が聞いていた等の場面があった。

対応例

- ・利用者からの要望等は速やかにフロアリーダー等に報告することを徹底した。

事例 3

- ・利用者からの希望や訴え、家族からの指示や希望を聞き取れないことがある。

対応例

- ・利用者や家族から聞いたことがわからないときは、わからないまま曖昧な返事をせず、日本人職員を呼ぶように指導した。
- ・十分に日本語を理解できるようになるまでは、勘違いやトラブルにならないように必ず日本人職員が横に付いて話をするようにした。

事例 4

- ・面会に来た家族から利用者の様子を聞かれたときに、正しく答えることができないことがある。

対応例

- ・家族へ利用者の様子を確実に伝達するために、様子を聞かれたときは他職員へ報告し対応するようにした。
- ・EPA 介護福祉士が勝手に判断して返答をしないように指導した。困ったら周りの職員（リーダー）に聞くように指導した。
- ・入職時に家族へのお便りに EPA 介護福祉士を顔写真入りで紹介し、外国人がいることを理解してもらい、対応した。
- ・職員を交代させて家族や利用者の説明し、その場は対応した。対応が終わった後、EPA 介護福祉士に家族の質問内容を説明し、対応の話し方も指導した。

事例 5

- ・個別機能訓練のことなどを家族から聞かれたときに、対応がうまくできないことがある。

対応例

- ・他職員が同席して細かい内容をフォローした。

3. 課題：利用者や家族に対して聞き間違いや理解したふりをする

事例 1

- ・利用者や家族から依頼されたことなどに対して、EPA 介護福祉士は返事をするが内容を理解していないことがあり、利用者や家族から問い合わせがあった。

対応例

- ・利用者や家族からの依頼内容は、すぐに担当者に報告をするよう指導した。EPA 介護福祉士の理解が乏しかった場合は、担当者から利用者、家族に再度内容確認を実施した。

事例 2

- ・ある利用者から「トイレが便で汚れていたから、声をかけて掃除をして欲しいと頼んだけど、EPA 介護福祉士は返事だけして掃除はしてくれなかった」という訴えがあった。

対応例

- ・EPA 介護福祉士には、わからなかったこと、聞き取れなかったことについては「わからない」「もう一度」と意思表示するよう指導した。「はい」と返事をするとう利用者側は伝達されたもの、わかかったものと捉え、業務に支障、ひいては利用者の不利益につながる可能性がある、と説明した。

4. その他

事例 1

- ・家族からの電話のやりとりや家族からの伝言（誰がどうするという内容）がうまく伝わらないことがある。

対応例

- ・電話の途中で日本人職員と一緒に聞けるときは聞く、または代わって聞くようにした。ある程度対応困難と予測のつくものは、担当を外した。
- ・家族からの電話の内容によっては、日本人職員がすぐに折り返しの電話で対応するようにした。

事例 2

- ・家族は、EPA 介護福祉士だからといって、サービスの質を下げてしまうことを望まない。家族側が、EPA 介護福祉士に対して気を遣わずに本人の日本語能力に合わせるのは難しい。

対応例

- ・EPA 介護福祉士が対応することで、クレームになりそうな家族の対応は行わせないようにした。国籍に関わらず EPA 介護福祉士を歓迎する家族もなかにはいるので、ケースバイケースで対応した。

第 4 節 EPA 介護福祉士が利用者や家族等に話す場面での課題と取り組み事例

1. 課題：丁寧語、敬語の使い分けが難しい

事例 1

- ・敬語をうまく使えないことが多く、話す場面で少し強い口調になるときがある。丁寧に話そうとするがきつく聞こえることがある。
- ・日本人特有の直接的な表現を用いなくて伝えるということが難しいため、率直な表現で誤解を招くことがある。

対応例

- ・基本的に丁寧語が使えるようになれば、どのような場面でも、相手に不快感を与えることが少ないため、敬語がうまくできなくても、丁寧語が使えるように指導した。

事例 2

- ・利用者はペースがゆっくりなので、むしろ、EPA 介護福祉士がゆっくり話してくれる部分では、利用者は聞き取りやすいようだ。ただ、EPA 介護福祉士が無理に正しい敬語を使おうとするため、間違った伝わり方をすることがある。

対応例

- ・専門の学習以外に、介護現場での会話の学習なども交えて指導した。日常会話のなかで、上司や同僚から、文法は教えられなくても、正しいことばや文の使い方を教えた。

事例 3

- ・声かけ、コミュニケーションを行ううえで敬語がどういうことばなのかははっきり理解しないまま使っている様子が見られるため、場面によっては不適切な声かけになっている。家族への説明時はうまく伝えることができないため、あまり行っていない。

対応例

- ・日本人職員と同様にことば遣いや不適切な表現等について、研修や勉強会に参加する等で知識を養うようにした。

事例 4

- ・当初は、敬語と丁寧語が混じった話し方になっていた。家族から話しかけられることもなかった。

対応例

- ・EPA 介護福祉士は、職員と積極的に会話をしたり、外出し、公共交通機関を利用して社会参加をすることで、敬語と普通の話し方の使い分けができるようになった。家族との信頼関係もでき、質問されたら的確に答えることができるようになった。

事例 5

- ・敬語がうまく使いこなせないで、単発的な発言でのやりとりが多い。

対応例

- ・声かけの際は、必ず利用者の同意を得るようにしてから行動に移すように、自分のことばで相手に伝えているかの確認も含めて EPA 介護福祉士に指導した。

事例 6

- ・親しみのある話し方のなかに、使い方のおかしい敬語が混ざる。「はい」ではなく「うん」と返事をすることがある。

対応例

- ・正しい敬語の使い方を説明し、日本人職員が気付いたときに指導した。相手に合わせた会話ができるよう練習した。

事例 7

- ・利用者に対し「〇〇さん」とさん付けができない。

対応例

- ・日本での名前の呼び方を指導し、EPA 介護福祉士もさん付けで呼ぶようにした。日頃から積極的に話し、利用者の家族とも話しをするように指導した。

事例 8

- ・家族が面会に来て施設内のどこに家族がいるのかわからないとき、「どこにいますか」と聞かれても、EPA 介護福祉士は正しい敬語がとっさに出てこないことがある。

対応例

- ・ある程度、返答の内容が決まっているものは、デモンストレーションをして対応方法を EPA 介護福祉士に覚えさせた。

2. 課題：利用者や家族への説明、突発的な事態への対応が難しい

事例 1

- ・家族に対して、利用者のケアプラン・リハビリ計画書・栄養マネジメント計画書の説明がうまくできない。

対応例

- ・日本人職員が隣に付いて一緒に話し、トラブルにならないよう適宜補足しフォローした。
- ・EPA 介護福祉士が説明などを行う際は、日本人職員とともに行うようにした。また、不安なときはいつでも日本人職員を呼ぶように指導した。その際には日本人職員と同席させて対応方法を学ばせた。

事例 2

- ・認知症入居者の対応や、精神不穏入居者への臨機応変な関わりがなかなかできない。

対応例

- ・EPA 介護福祉士が家族と関わる時は、日本人介護職員と一緒に対応した。利用者に関わる時は笑顔を心がけるように伝えた。ある程度の理解があり、上手に話せないこと、臨機応変なことばが出ないことで不穏になってしまう利用者においては、日本人職員と交代するようにした。

事例 3

- ・利用者には EPA 介護福祉士から話しかけ、利用者との会話中もトラブルなく笑顔が多くみられる。対応の仕方の理解が弱いこともあり、利用者が少し落ちつかなくなることもあったが、その後 EPA 介護福祉士から話しかけて利用者を理解しようとする姿勢がみられている。

対応例

- ・EPA 介護福祉士が 1 人でスムーズに利用者と会話にならないときは日本人職員が介入し、話し方のコツなどを見て聞いて覚えさせた。

3. 課題：助詞、接続詞の使い方、発音等が難しい

事例 1

- ・日本語のニュアンスで細かい部分までの会話が難しい。

対応例

- ・難しい会話になったときは日本人職員を呼ぶように指導した。

事例 2

- ・間の取り方、文章の構成（主語・述語が逆転しており、伝わらない）。発音が悪い。

対応例

- ・その都度指摘して指導した。

事例 3

- ・利用者に話すときに早口になったり、発音がはっきりしないとなかなか聞き取ってもらえないことがある。

対応例

- ・ゆっくりと一言一言をはっきり話したり、身ぶりで表現するよう指導した。また、わからないときには必ずほかの日本人職員に助けを求めるよう指導した。

事例 4

- ・あいさつ、会話、声かけ（体操プログラムの説明等毎日のことでも）、イントネーションの違いから、利用者が聞き取れないことがある。

対応例

- ・利用者が比較的慣れているプログラムから EPA 介護福祉士に対応させるようにした。利用者がわかりにくいときには、EPA 介護福祉士に少しアドバイスして修正した。日本人職員が同じことを再度利用者に伝えフォローした。

事例 5

- ・発音がうまくないため、違う意味にとられ、会話が成立しないことが多い。

対応例

- ・EPA 介護福祉士が利用者と会話をしているのを見かけたら、日本人職員が近くに寄って会話が成立するようにサポートした。

事例 6

- ・EPA 介護福祉士が利用者や家族と話そうとしても短い会話で終わったり、返事をするだけになったりしてしまう。EPA 介護福祉士が不安に感じているのか、家族とのコミュニケーションを少し避けることがある。

対応例

- ・難しい対応でなく、あいさつ等簡単なことから行ってもらった。
- ・できるだけ EPA 介護福祉士の方からコミュニケーションを始められるように利用者や家族との会話の機会を作った。

1 入国後1年間の日本語学習カリキュラム

1) 概要

入国後1年間の日本語学習は、介護分野の技能実習生が円滑な実習生活を送るうえで、非常に重要な位置づけである。そのため、日本語の学習計画を立てる際は、監理団体や実習実施者の日本語学習指導者が技能実習責任者や技能実習指導員等と連携し、技能実習計画も考慮した日本語学習計画を作成する必要がある。そのため、以下の項目を正しく理解しておく必要がある。

2) 目標

実習生の日本語能力および日本社会に対する理解を高めることにより、実習実施者での実習が円滑に進むことを目的とする。日本語研修の1年間の到達目標は次のとおりとする。

- ①日本語の基本的な会話、読み、聞く能力の確保
 - ※日本語能力試験 N3 程度以上のレベル
 - ※指導者からの指示を適切に理解できるレベル
- ②日本での生活に関する情報の提供と体験
- ③日本の文化・社会に対する基本的理解
- ④日本の介護に関する基本的な知識の習得

3) 対象者

本カリキュラムでは、日本語能力試験 N4 程度を取得したものが、入国後講習終了後約8か月で N3 程度に合格するレベルを目指す者を対象とする。

※実習生の国籍、母国での教育背景や職歴等を考慮して、入国時の日本語能力のレベルを確認する必要がある。

4) 1年間の学習計画の概要

介護職種の技能実習生が行う1年間の日本語学習の概要を以下に示す。

①入国後講習

- ・技能実習制度において、入国後、監理団体が行うことが義務付けられている。
- ・制度の規定に従い、通常2か月程度の講習が行われる場合、200時間程度の日本語学習時間を確保することが必要である。

②実習実施者で行われる日本語学習

- ・入国後講習後、実習実施者における日本語学習は、入国後講習終了後、8か月間を想定。
- ・実習実施者が、技能実習と並行してN3程度取得に向けた日本語学習支援を行う。
- ・特に、介護の技能実習では、指導者の指示を正確に聞き取る必要があることから、聴解学習プログラムを別途示している。

5) レベル判定

- ・1年間の学習を進める際、定期的に日本語能力のレベル判定を行い、日本語学習の進捗を確認するとともに、日本語能力試験の受験時期を判断する。
- ・標準的なレベル判定の時期、実施方法を以下に示す。

時期	内容	方法
①入国後 ^(※1)	筆記・聴解・口頭（インタビュー）	市販の模擬試験
②入国後講習終了時	筆記・聴解	市販の模擬試験
③入国後講習終了2か月後		復習テスト ^(※2)
④入国後講習終了4か月後		
⑤入国後講習終了6か月後		市販の模擬試験

(※1) 「①入国後」は、1か月間の入国後講習前に実施し、成績によりクラス分けやクラスカリキュラムを決定する。

(※2) 復習テストとは日本語学習 Web コンテンツの日本語学習補助教材を指す。

(参考：1年間の日本語学習のスケジュール)

			学習目標・内容等	実施形態	学習目標・内容等	実施形態	レベル判定
1・2か月	自律学習 Webコンテンツによる自律学習の進め方研修を実施する	Webコンテンツによる自律学習の進め方研修を実施する	【日本語】 ■目標例 (N4 上位者) 自身の考えをまとまりのある単位 (複数の文レベル) で発話することができる 特定の職業 (病院スタッフ、介護スタッフ) の人とのやりとりがある程度できる ■学習内容 4 技能 (話す・聞く・書く・読む) の基礎力をバランスよく伸ばせるよう、科目を立てて指導する 例) 聴解、読解、会話など 【介護の日本語】 ■目標 実習実施者で必要となる基礎的な介護のことばを覚え、円滑に業務が行えるようになる	(入国後講習) 監理団体による入国後講習			①入国後【模擬試験】クラス分け必要に応じてレベル分けを行う (「N3 取得者」「N4 上位者」「N4 下位者」の3段階を想定)
						②入国後講習終了時【模擬試験】入国後講習の学習成果を確認	
入国後講習終了1か月	自律学習 WEB上のドリルや小テストにて学習を進め、N3 程度の合格を目指す	実習実施者の日本語学習指導者は実習生と相談しながら受験スケジュールを組み、N3 程度の合格を目指す	実習実施者での実務および、日本語能力試験 N3 程度の試験に合格できる日本語の習得を目指す。各実習生の実力に合わせて、学習を始める 【必須科目 (日本語)】 ■目標例 (1 段階) N3 レベルの問題に取り組めるように N4 レベルの日本語の理解力、運用力を高める ■学習内容 日本語能力試験 N3 程度の試験に合格するために、以下の科目を計画的に学習する ・文字・語彙・文法 ・読解・聴解・自律学習	実習実施者における自律的な日本語学習 ＝実習生の日本語学習を実習実施者の日本語学習指導者は定期的に学習状況を確認する ■留意点 実習生は計画的に日本語学習を進める	聴解能力強化のための日本語学習 ■目標例 日本語の文の構造や初級文法をしっかりと理解し、細かい部分に注意を払って、正確に聞くことができる ■学習内容 市販の日本語 (音声) 教材を用いて、まとまりのある発話や自然な会話の聞き取りを行う	(聴解学習) 実習実施者における自律的な日本語学習＝実習生の日本語学習を実習実施者の日本語学習指導者は定期的に学習状況を確認する ■留意点 実習生は計画的に日本語学習を進める	③入国後講習終了2か月後【模擬試験】復習テスト日本語学習Webコンテンツより出題
入国後講習終了2か月	自分でスケジュール計画を立てて、自律学習を進める						

		学習目標・内容等	実施形態	学習目標・内容等	実施形態	レベル判定
入国後 講習終了 3か月		【推薦科目（介護の日本語）】 ■目標 入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる				
入国後 講習終了 4か月					④ 入国後講習終了4か月後 【模擬試験】 復習テスト 日本語学習Webコンテンツより出題	
入国後 講習終了 5か月						
入国後 講習終了 6か月				N3程度の合格に向けた試験対策 ＝入国後講習終了6か月後のレベルチェックにて結果の芳しくなかった実習生は合格するための最後の学習期間	(直前学習) ■留意点 日本語教師（有資格者）による日本語指導が望ましい	⑤ 入国後講習終了6か月後 【模擬試験】 市販のテストにて熟達度確認
入国後 講習終了 7か月				■目標 数多くの問題を通して、正答率70%以上を目指す		
入国後 講習終了 8か月				■学習内容 時間をはかって問題演習 解答テクニックの習得		
入国後 講習終了 9か月						
入国後 講習終了 10か月	各種手続					

2 実習実施者での日本語学習指導要領

1) 目標

実習生の日本語能力および日本社会に対する理解を深めることにより、実習実施者での介護の実務および実習が少しでも円滑に進むようになることを目的とし、日本語能力試験 N3 程度の試験に合格できる日本語力の習得を目指す。

2) 科目

「必須科目」と「推薦科目」に分類する。「必須科目」は日本語能力試験 N3 程度の試験に合格するための学習科目で構成し、「推薦科目」は実習実施者での実務および実習が円滑に進むようになるための学習科目で構成する。各科目の具体的な内訳は、下記のとおりである。

- ・必須科目：文法、語彙、読解、文字、聴解、自律学習
- ・推薦科目：発音、介護の日本語

3) 教材の準備

- ①カリキュラムを参考に、科目ごとに適切な教材を使用する。
- ②実習生一人ひとりに教材を配付し、自宅学習が可能にすることが望ましい。

4) 学習の進め方(入国後講習のレベルとの対応)

- ・効率的に学習を進めるために、1～4段階ごとにシラバスを立案しており、1段階ごとの学習期間は2か月間である。下記の記述を参考に各実習生の日本語能力に合わせて、学習を始める段階を選択することが望ましい。
- ・入国後講習において、「N4 下位者向け」の研修を受講した実習生は1段階目の「ブラッシュアップ(復習を兼ねた日本語力向上)期」から、「N4 上位者向け」の研修を受講した実習生は2段階目の「N3 実力養成期」から、「N3 取得者向け」の研修を受講した実習生は4段階目の「N3 取得者向け」から学習を開始するのが望ましい。研修の途中で N3 程度の試験に合格した場合は、4段階目の「N3 取得者向け」の学習に移行し、更なる日本語力の向上を目指すことを推奨する。

学習モデル例



5) 時間割例

標準的なプログラムで示した内容に沿って、以下に示す時間割例を参考に、日本語学習計画を立案する。ただし、本手引きで示した標準的な学習プログラム（1～3段階）を6か月間で行う場合、少なくとも1週間当たり約8時間の学習時間の確保が必要。

(例) 1段階～3段階の場合の1週間の学習モデル

	必須科目	推薦科目
月	文字、語彙、文法	発音、介護の日本語
火	文字、語彙、読解	発音、介護の日本語
水	文字、語彙、文法	発音、介護の日本語
木	文字、語彙、聴解	発音、介護の日本語
金	文字、語彙、文法	発音、介護の日本語
土	文字、語彙、文法、読解	発音、介護の日本語
日	文字、語彙、文法、聴解	発音、介護の日本語

※ 1週間に1度、自律学習で学習の振り返りを行う。

(例) 2段階の場合の日々の学習モデル

月	<ul style="list-style-type: none"> ・文字：学習目安：文字を学ぶための教材を2日で1ページのペースで進める ・語彙：学習目安：語彙を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・文法：学習目安：文法を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める
火	<ul style="list-style-type: none"> ・文字：学習目安：文字を学ぶための教材を2日で1ページのペースで進める ・語彙：学習目安：語彙を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・読解：学習目安：読解を学ぶための教材を1日4ページのペースで進める
水	<ul style="list-style-type: none"> ・文字：学習目安：文字を学ぶための教材を2日で1ページのペースで進める ・語彙：学習目安：語彙を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・文法：学習目安：文法を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める
木	<ul style="list-style-type: none"> ・文字：学習目安：文字を学ぶための教材を2日で1ページのペースで進める ・語彙：学習目安：語彙を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・聴解：学習目安：聴解を学ぶための教材を1日4ページのペースで進める
金	<ul style="list-style-type: none"> ・文字：学習目安：文字を学ぶための教材を2日で1ページのペースで進める ・語彙：学習目安：語彙を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・文法：学習目安：文法を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める
土	<ul style="list-style-type: none"> ・文字：学習目安：文字を学ぶための教材を2日で1ページのペースで進める ・語彙：学習目安：語彙を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・文法：学習目安：文法を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・読解：学習目安：読解を学ぶための教材を1日4ページのペースで進める
日	<ul style="list-style-type: none"> ・文字：学習目安：文字を学ぶための教材を2日で1ページのペースで進める ・語彙：学習目安：語彙を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・文法：学習目安：文法を学ぶための教材を1日2ページのペースで進める ・聴解：学習目安：聴解を学ぶための教材を1日4ページのペースで進める

(例) 4段階の場合の1週間の学習モデル

※ N3程度をすでに取得した場合においても、日本語学習指導者は、日本語の基本的な知識を確実にするために、実習生に学習継続を薦める。

	必須科目	推薦科目
月	文字、総合日本語	発音、介護の日本語
火	文字、聴解	発音、介護の日本語
水	文字、総合日本語	発音、介護の日本語
木	文字、読解	発音、介護の日本語
金	文字、聴解	発音、介護の日本語
土	文字、総合日本語	発音、介護の日本語
日	文字、総合日本語	発音、介護の日本語

※ 1週間に1度、自律学習で学習の振り返りを行う。

6) 学習の進め方

■ 1 段階：ブラッシュアップ期（復習を兼ねた日本語能力の向上）

目標	N3レベルの問題に取り組めるようにN4レベルの日本語の理解力、運用力を高める。	
科目ごとの学習の概要		
①文法	目標	文脈の中で、基本文法（N4）を上手に運用することができる。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
②語彙	目標	基礎語彙（N4 語彙）1,500 語程度を運用することができる。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
③読解	目標	読解力を伸ばすためのポイントを理解し、N4 レベルの試験に出題されるさまざまなタイプの文章に触れながら、読解力を高める。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
④文字	目標	・N3 漢字 220 字程度が読め、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。
	進め方例	1. 漢字の読み、正しい書き方を 1 文字ずつ着実に覚える。 2. 学習した漢字の用例を確認する。 3. 章ごとの復習問題を解き、学習した漢字の定着度を確認する。定着状況がよくない漢字については、復習を行う。
⑤聴解	目標	聴解のポイントを理解し、N4 レベルの試験で高得点が取れる聴解力をつける。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
⑥発音	目標	2 週間に 1 つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標 4 曲。
	進め方例	1. 実習実施者の日本語学習指導者に相談して選曲する。 2. 歌と歌詞を入手し、カラオケで歌えるように練習する。 3. 2 週間に 1 回は、実習実施者の日本語学習指導者に歌を披露する。

⑦介護の日本	目標	入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。
	進め方例	<p>上記教材例を用いて、1日当たり5個程度のことばを学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習する介護のことばが使用される場面を確認する。 2. イラストや写真で理解を深めながら、ことばの意味と発音を確認する。 3. 実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを学習し、理解を深める。
⑧自律学習 (1週間に1度のペースで学習の振り返りを行う)	目標	自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画を立て、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。 2. 次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。 3. 実習実施者の日本語学習指導者に学習の進捗状況を報告する。

■ 2 段階 : N3 実力養成期

目標	N3 レベルの問題に取り組み、N3 程度の合格への実力をつける。	
科目ごとの学習の概要		
① 文法	目標	会話や文章中の用例を通して N3 レベルの文法を学習し、文型が使われる場面や状況、意味や用法が的確にとらえることができるようになる。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
② 語彙	目標	類義語や対義語などの関連語の学習を進めながら語彙を増やし、N3 レベルの語彙を理解し、運用できるようになる。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
③ 読解	目標	N3 レベルの試験に出題される多様なタイプの文章に触れながら、文章読解に必要な語句や表現を整理し、効率よく情報を処理する力を養い、読解力を高める。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
④ 文字	目標	・ N3 漢字 220 字程度が読め、書ける。 ・ 日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。
	進め方例	1. 漢字の読み、正しい書き方を 1 文字ずつ着実に覚える。 2. 学習した漢字の用例を確認する。 3. 章ごとの復習問題を解き、学習した漢字の定着度を確認する。定着状況がよくない漢字については、復習を行う。
⑤ 聴解	目標	・ 会話文の特徴と話しことばの音の変化を整理し、聴解力を身につける。 ・ N3 の聴解で出題される 5 つの問題形式（「発話表現」「即時応答」「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」）に慣れ、高得点をとるスキルを身につける。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。

⑥発音	目標	2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習実施者の日本語学習指導者に相談して選曲する。 2. 歌と歌詞を入手し、カラオケで歌えるように練習する。 3. 2週間に1回は、実習実施者の日本語学習指導者に歌を披露する。
⑦介護の日本	目標	入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。
	進め方例	<p>上記教材例を用いて、1日当たり5個程度のことばを学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習する介護のことばが使用される場面を確認する。 2. イラストや写真で理解を深めながら、ことばの意味と発音を確認する。 3. 実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを学習し、理解を深める。
⑧自律学習 (1週間に1度のペースで学習の振り返りを行う)	目標	自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画を立て、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。 2. 次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。 3. 実習実施者の日本語学習指導者に学習の進捗状況を報告する。

■ 3 段階 : N3 総仕上げ期

目標	N3 レベルの問題に取り組み、N3 程度の合格への実力をつける。	
科目ごとの学習の概要		
①文法	目標	会話や文章中の用例を通して N3 レベルの文法を学習し、文型が使われる場面や状況、意味や用法が的確にとらえることができるようになる。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
②語彙	目標	類義語や対義語などの関連語の学習を進めながら語彙を増やし、N3 レベルの語彙を理解し、運用できるようになる。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
③読解	目標	N3 レベルの試験に出題される多様なタイプの文章に触れながら、文章読解に必要な語句や表現を整理し、効率よく情報を処理する力を養い、読解力を高める。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
④文字	目標	・ N3 漢字が読め、書ける。 ・ 日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。
	進め方例	1. 漢字の読み、正しい書き方を 1 文字ずつ着実に覚える。 2. 学習した漢字の用例を確認する。 3. 章ごとの復習問題を解き、学習した漢字の定着度を確認する。定着状況がよくない漢字については、復習を行う。
⑤聴解	目標	・ 会話文の特徴と話しことばの音の変化を整理し、聴解力を身につける。 ・ N3 の聴解で出題される 5 つの問題形式（「発話表現」「即時応答」「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」）に慣れ、高得点をとるスキルを身につける。
	進め方例	1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。

⑥発音	目標	2週間に1つの歌を歌って覚える。介護歌詞を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習実施者の日本語学習指導者に相談し選曲する。 2. 歌と歌詞を自身で入手し、カラオケで歌えるように練習する。 3. 2週間に1回は、実習実施者において歌を披露する機会を設定する。
⑦介護の日本	目標	入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。
	進め方例	<p>上記教材例を用いて、1日当たり5個程度のことばを学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習する介護のことばが使用される場面を確認する。 2. イラストや写真で理解を深めながら、ことばの意味と発音を確認する。 3. 実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを学習し、理解を深める。
⑧自律学習 (1週間に1度のペースで学習の振り返りを行う)	目標	自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画を立て、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。 2. 次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。 3. 実習実施者の日本語学習指導者に学習の進捗状況を報告する。

■ 4 段階 : N3 取得後

目標	総合的な日本語運用力を高め、実習実施者において、ある程度円滑にやりとりすることができるようになる。	
科目ごとの学習の概要		
①総合 日本語(総合的に日本語能力を伸ばすことができる教材を選定する)	目標	文章を読解したり、自分の力で文章をまとめたりすることを通して日本語の運用力を高める。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 読解文を読み、問題を解く。解答を見て、答え合わせをする。 2. 解説を見ながら、読解文中の語彙や文法を学習する。 3. 読解したテーマの感想や意見、自分で調べたことをまとめて、実習実施者の日本語学習指導者に話す。 4. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
②読解	目標	解説、エッセイ、小説など500字以上のテキストを読んで、概要や論理の展開などが理解できる。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分のレベルや興味に合った読み物を選び、読解する。 2. 読解した文章の感想や意見を実習実施者の日本語学習指導者に話す。 3. 読解した文章で理解が不十分な箇所があった場合は、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
③文字	目標	介護看護の現場で使われる漢字やN2レベルの漢字の読み書きができるようになる。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漢字の読み、正しい書き方を1文字ずつ着実に覚える。 2. 学習した漢字の用例を確認する。 3. 章ごとの復習問題を解き、学習した漢字の定着度を確認する。定着状況がよくない漢字については、復習を行う。
④聴解	目標	日常生活におけるさまざまな形式の自然な会話が理解できる。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題を解き、解答解説を見て答え合わせをする。 2. 解答解説を見ても理解が不十分なときは、実習実施者の日本語学習指導者に質問する。
⑤発音	目標	2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。
	進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習実施者の日本語学習指導者に相談し選曲する。 2. 歌と歌詞を入手し、カラオケで歌えるように練習する。 3. 2週間に1回は、実習実施者の日本語学習指導者に歌を披露する。

⑥介護の日本語	目標	入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。
	進め方例	上記教材例を用いて、1日当たり5個程度のことばを学習する。 1. 学習する介護のことばが使用される場面を確認する。 2. イラストや写真で理解を深めながら、ことばの意味と発音を確認する。 3. 実際の介護の現場では、学習したことばがどのような発話例で用いられるかを学習し、理解を深める。
⑦自律学習 (1週間に1度のペースで学習の振り返りを行う)	目標	自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画を立て、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、日本語の学習が円滑に進められるようになる。
	進め方例	1. 今週の学習を振り返り、学習に対する自己評価を行う。 2. 次週の学習目標を立て、学習計画を立てる。 3. 実習実施者の日本語学習指導者に学習の進捗状況を報告する。

実習実施者での日本語学習 シラバス

		必須科目				
		全体目標	科目	文法	語彙	読解
1 段階	ブラッシュアップ期	・N3レベルの問題に取り組めるようにN4レベルの日本語の理解力、運用力を高める。	目標	・文脈の中で、基本文法(N4)を上手に運用することができる。	・基礎語彙(N4語彙)1,500語程度を運用することができる。	・読解力を伸ばすためのポイントを理解し、N4レベルの試験に出題されるさまざまなタイプの文章に触れながら、読解力を高める。
		全体目標	科目	文法	語彙	読解
2 段階	N3 実力養成期	・N3レベルの問題に取り組み、N3程度の合格への実力をつける。	目標	・会話や文章中の用例を通してN3レベルの文法を学習し、文型が使われる場面や状況、意味や用法が的確にとらえることができるようになる。	・類義語や対義語などの関連語の学習を進めながら語彙を増やし、N3レベルの語彙を理解し、運用できるようになる。	・N3レベルの試験に出題される多様なタイプの文章に触れながら、文章読解に必要な語句や表現を整理し、効率よく情報を処理する力を養い、読解力を高める。
		全体目標	科目	文法	語彙	読解
3 段階	N3 総仕上げ期	・N3レベルの問題に取り組み、N3程度の合格への実力をつける。	目標	・会話や文章中の用例を通してN3レベルの文法を学習し、文型が使われる場面や状況、意味や用法が的確にとらえることができるようになる。	・類義語や対義語などの関連語の学習を進めながら語彙を増やし、N3レベルの語彙を理解し、運用できるようになる。	・N3レベルの試験に出題される多様なタイプの文章に触れながら、文章読解に必要な語句や表現を整理し、効率よく情報を処理する力を養い、読解力を高める。
		全体目標	科目	総合日本語		読解
4 段階	N3 取得者向け	・総合的な日本語運用力を高め、実習実施者において、ある程度円滑にやりとりすることができるようになる。	目標	・文章を読解したり、自分の力で文章をまとめたりすることを通して日本語の運用力を高める。		・解説、エッセイ、小説など500字以上のテキストを読んで、概要や論理の展開などが理解できる。

必須科目		推薦科目		
文字	聴解	発音	介護の日本語	自律学習
<ul style="list-style-type: none"> ・N3漢字220字程度が読み、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴解のポイントを理解し、N4レベルの試験で高得点が取れる聴解力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画を立て、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
文字	聴解	発音	介護の日本語	自律学習
<ul style="list-style-type: none"> ・N3漢字が読み、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文の特徴と話しことばの音の変化を整理し、聴解力を身につける。 ・N3の聴解で出題される5つの問題形式（「発話表現」「即時応答」「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」）に慣れ、高得点をとるスキルを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画を立て、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
文字	聴解	発音	介護の日本語	自律学習
<ul style="list-style-type: none"> ・N3漢字が読み、書ける。 ・日常生活でよく目にする漢字の意味が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文の特徴と話しことばの音の変化を整理し、聴解力を身につける。 ・N3の聴解で出題される5つの問題形式（「発話表現」「即時応答」「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」）に慣れ、高得点をとるスキルを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画を立て、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、N3程度の合格までの学習が円滑に進められるようになる。
文字	聴解	発音	介護の日本語	自律学習
<ul style="list-style-type: none"> ・介護看護の現場で使われる漢字やN2レベルの漢字の読み書きができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活におけるさまざまな形式の自然な会話が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間に1つの歌を歌って覚える。曲を忠実に再現できるように発音に注意する。目標4曲。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入職後に必要な介護のことばを覚え、円滑に業務がこなせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律学習スキルを習得し、目標に向かって学習計画を立て、計画に沿って学習を進め、振り返りを行うことで、日本語の学習が円滑に進められるようになる。

3 聴解学習指導要領

1) 目標

①前半目標：

日本語の文の構造や初級文法をしっかりと理解し、細かい部分に注意を払って、正確に聞くことができる。

②後半目標：

日常生活のなかで遭遇する可能性の高い場面で使用される自然な表現（言い回しやことば等）を正確に聞き取り、的確に応答することができる。

2) 対象者

- ・入国後講習において、N4 下位者向け研修に参加した者は全員を対象とすることが望ましい。
- ・入国後講習において、N4 上位者向け研修参加者は、聴解問題の得点が7割以下の実習生を対象とすることが望ましい。

3) 教材の準備

- ・実習生一人ひとりに教材を配付し、自己学習を可能にする。

4) 学習の進め方

- ・安定した聴解力を身につけるために、1日1時間、1週間で約5時間の聴解練習を10週間継続して行うことを想定している（合計約50時間）。

①前半（1～4週目）	
練習例	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の音を正確に聞きわけける練習：音声を聞いて、正しい文法を選ぶ 等 ・まとまりのある会話を聞いて大意をつかむ練習：会話の内容と合っているものを選ぶ 等
進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の文法や文型を聞いて理解できるかどうかを確認する基本な問題に取り組む。細かい部分にもよく注意して聞き取るようにする。 2. 文型を使った会話練習の聴解問題に取り組む。会話が行われている場面を想像しながら聞き、会話の内容を理解する。聞き取れなかったところは、何回も繰り返し聞くようにする。どうしてもわからない場合は、教材に付属しているスクリプトを見て確認し、再度聞き取り練習を行うとよい。 3. 聞いた内容の感想などを実習実施者の日本語学習指導者に話すようにすると、実践的なコミュニケーションの練習になるので、実施するのが望ましい。
②後半（5～10週目）	
練習例	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを正確に聞き取る練習：空欄にあてはまることばや文を選ぶ 等 ・自然なスピードの会話を聞いて、正しく応答する：会話の流れから、的確な応答例を選ぶ 等
進め方例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題文を聞き、適切な選択肢を選ぶ。 2. 的確な応答例や表現を選ぶタイプの問題のときは、実際に正しい日本語で答えが言えるようになるまで声に出して練習する。滑らかに言えるまで、繰り返し練習することが望ましい。

聴解学習シラバス

	目標	練習例
前半 1～4週目	日本語の文の構造や初級文法をしっかりと理解し、細かい部分に注意を払って、正確に聞くことができる	日本語の音を正確に聞きわけける練習 …音声を聞いて、正しい文法を選ぶ 等 まとまりのある会話を聞いて大意をつかむ練習 …会話の内容と合っているものを選ぶ 等
後半 5～10週目	日常生活のなかで遭遇する可能性の高い場面で使用される自然な表現（言い回しやことば等）を正確に聞き取り、的確に応答することができる	キーワードを正確に聞き取る練習 …空欄にあてはまることばや文を選ぶ 等 自然なスピードの会話を聞いて、正しく応答する …会話の流れから、的確な応答例を選ぶ 等

日本語能力試験 N3 程度の公的な日本語試験の概要、受験手続き等は次のとおりである（記載内容は、すべて 2017 年 9 月時点）。

1 日本語能力試験（JLPT）

ホームページ	http://www.jlpt.jp/
概要	<p>日本語能力試験（JLPT）は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し、認定する世界最大規模の日本語の試験。</p> <p>【N3 試験の試験科目と試験時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語知識（文字・語彙）：30 分 ・言語知識（文法）・読解：70 分 ・聴解：40 分 <p>【合否の判定】</p> <p>合格するためには、①総合得点が合格に必要な点（＝合格点）以上であること、②各得点区分の得点が、区分ごとに設けられた合格に必要な点（＝基準点）以上であること、の 2 つが必要である。1 つでも基準点に達していない得点区分がある場合は、総合得点がどんなに高くても、不合格になる。</p>
時期	年 2 回（7 月、12 月）
会場	事前に受験会場を確認することはできない。受験票で案内がある。
日程	それぞれの試験の約 5 か月前に発表
結果通知	合否結果通知書は毎年 9 月上旬、2 月上旬に発送
受験料	5,500 円
申込手順	<p>【郵送】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全国の大きな書店にて受験案内（願書）を購入（願書は、それぞれの試験の約 4 か月前に発売（全国の大きな書店にて購入可能）） ②受験料をゆうちょ銀行か郵便局で支払 ③特定記録郵便にて受験願書を郵送 <p>【インターネット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本国際教育支援協会のホームページより、MyJLPT へ登録 ② MyJLPT にログインして受験申込情報を登録 ③受験料をクレジットカードまたは銀行振込（もしくはコンビニ）にて支払い ④発行された申込受付番号を控えておく

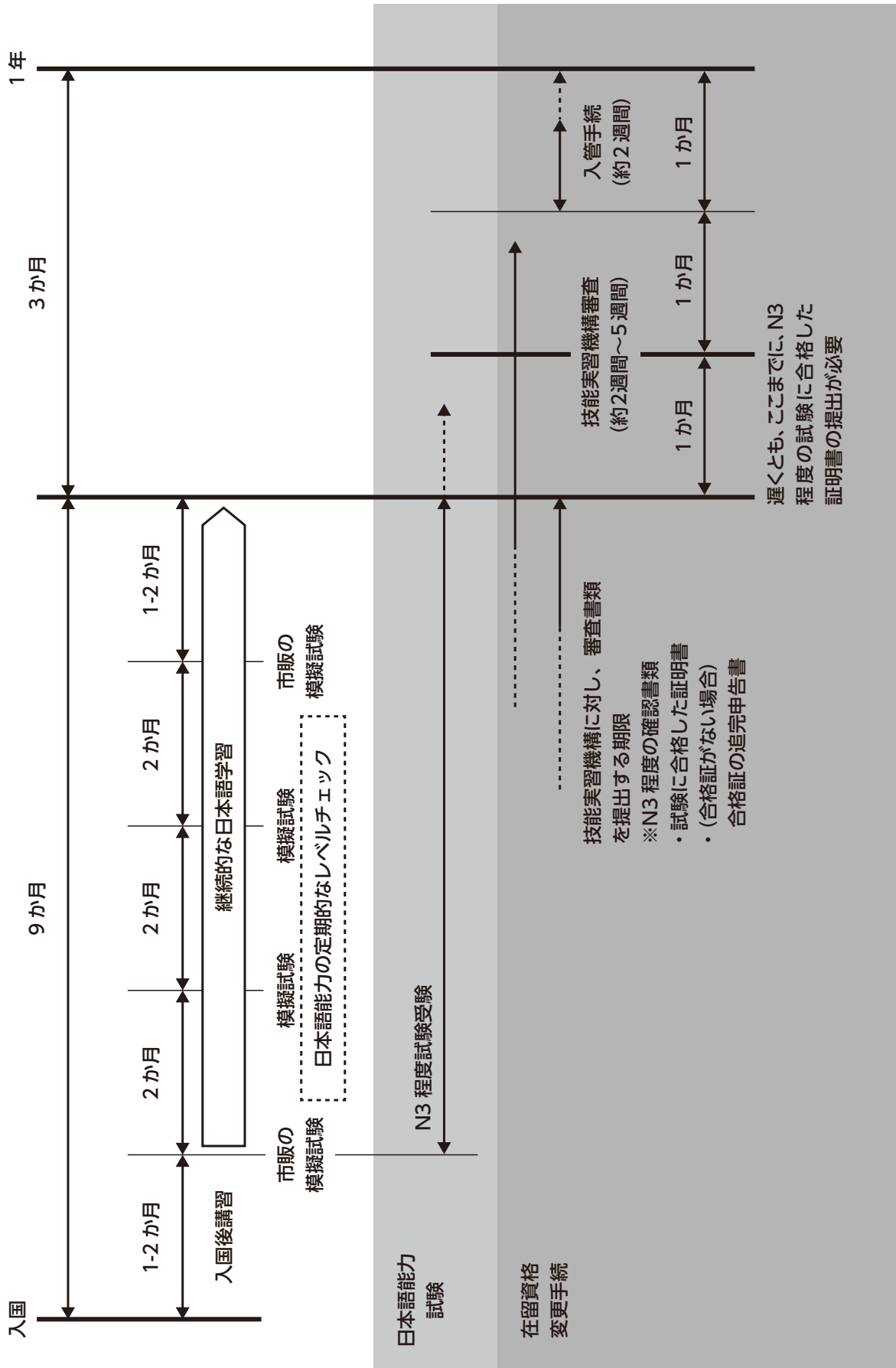
2 実用日本語検定 (J.TEST)

ホームページ	http://j-test.jp/															
概要	<p>日本語能力試験 (JLPT) 同様のレベル判定ができる試験 [A-D レベル試験]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1000 点満点で点数によって能力を特 A ~ D 級に判定 ・ 400 点以上の方には認定証を発行 ・ ただし「8 分野の得点でゼロ点がないこと」が条件 <p>【参考】 J-TEST と JLPT との日本語レベル比較 (目安)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>J-TEST</th> <th>JLPT</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A レベル (900 点)</td> <td>(N1 以上)</td> </tr> <tr> <td>B レベル (800 点)</td> <td>(N1 以上)</td> </tr> <tr> <td>準 B レベル (700 点)</td> <td>N1 程度</td> </tr> <tr> <td>C レベル (600 点)</td> <td>N2 程度</td> </tr> <tr> <td>D レベル (500 点)</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>準 D レベル (400 点)</td> <td>N3 程度</td> </tr> </tbody> </table>		J-TEST	JLPT	A レベル (900 点)	(N1 以上)	B レベル (800 点)	(N1 以上)	準 B レベル (700 点)	N1 程度	C レベル (600 点)	N2 程度	D レベル (500 点)	—	準 D レベル (400 点)	N3 程度
J-TEST	JLPT															
A レベル (900 点)	(N1 以上)															
B レベル (800 点)	(N1 以上)															
準 B レベル (700 点)	N1 程度															
C レベル (600 点)	N2 程度															
D レベル (500 点)	—															
準 D レベル (400 点)	N3 程度															
時期	年 6 回 (1 月、3 月、5 月、7 月、9 月、11 月)															
会場	東京、名古屋、大阪、福岡 ※ 3 月、7 月、11 月は、札幌、仙台、石川、静岡、神戸、京都、広島、大分、沖縄も可															
日程	直近の実施日程は常にホームページに公開されている。 申込締切は、試験の約 1 か月前															
結果通知	成績表は受験 1 か月以内に発送。 ※「随時試験」は、認定証が発行されないため、適用外とする。															
受験料	4,300 円															
申込方法	<p>【郵送】 申込書をダウンロードする (http://j-test.jp/xp/2017-3-appli.pdf)。又は、申込書請求フォームから申し込む。 (https://fs220.xbit.jp/f775/form9/)。</p> <p>【インターネット】 インターネットの申込フォームから申し込む (https://fs220.xbit.jp/f775/form10/)。</p>															

3 日本語 NAT-TEST

ホームページ	http://www.nat-test.com/index.html
概要	<p>出題の基準と構成は日本語能力試験 (JLPT) と同程度である。それぞれの級の難度は、日本語能力試験の N5 ～ N1 に対応している。</p> <p>※日本語能力試験の模擬試験としても使えるように設計されているので、実際の日本語能力試験と比べると「やや難しく」なっている (実施団体サイトより)。</p> <p>[3 級の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語知識 (文字・語彙) 30 分 (60 点) ・言語知識 (文法)・読解 70 分 (60 点) ・聴解 40 分 (60 点) <p>※合格基準は、上記 3 分野とも 25%以上の得点であり、総合得点が合格点に達することが原則。</p>
時期	年 6 回 (2 月、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月)
会場	東京都豊島区西池袋
日程	実施日程は常にホームページに公開されている。申込締切は、試験の約 1 か月前である。
結果通知	成績表・合格証は受験約 3 週間後に発送。
受験料	4,500 円
申込方法	<p>【電子メール】 下記を、電子メールで送信 (宛先: nattest@senmonkyouiku.co.jp) 名前 (ローマ字で)、性別、生年月日、国籍、郵便番号と住所、電話番号 希望する受験回、希望するレベル、顔写真</p>
問合せ先	<p>【メール】 nattest@senmonkyouiku.co.jp 【電話】 03-3565-3071 (専門教育出版 NAT-TEST 事務局)</p>

4 日本語能力試験と在留資格変更手続の関係



この「介護分野の技能実習生の実習実施者の日本語学習指導者向け手引き」は、公益社団法人 国際厚生事業団が行った調査研究事業(平成28年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業「介護分野の技能実習生の日本語学習方法及び学習教材等の調査開発事業」)の報告書を改変し、作成したものです。

「介護分野の技能実習生の実習実施者の日本語学習指導者向け手引き」

(平成29年度介護職種の技能実習生の日本語学習等支援事業)

平成29年(2017年) 10月発行

公益社団法人 日本介護福祉士会